

館山海上技術学校マリンセミナー開催

7月27・28日 全海運と関東船対協協賛、総連合会協力

全国海運組合連合会と関東地区船員対策協議会が協賛、日本内航海運組合総連合会が協力する国立館山海上技術学校の夏休み恒例のマリンセミナーが7月27日、28日の両日同校で、沖井海運取締役沖井洋氏と井原海運取締役古中洋平氏を講師に迎え開催された。

この行事は、夏休み期間中に生徒の保護者が同校に泊まりがけで、練習船による海上実習を始め各種実習、座学などを体験するもの。保護者達にとって、自らが体験することで生



徒との親子関係を深め合い、日頃接することの少ない保護者同士の親睦を図り、学校の教育現場を理解することが出来ると好評。このセミナー

には毎年、同校卒業生の採用企業や内航海運で働く海上技術学校卒業生を講師に迎え、保護者達の知らない内航海運の現状や船員生活・労働環境などをテーマに講演している。

初日は参加した保護者24名が授業を受けた後、講演会に移った。今回はゲストに榎本成男 関東地区船員対策協議会会長（関東沿海海運組合理事長、榎本回漕店社長）、中島繁全海運専務理事、米山龍雄同事務局次長、福島正太郎総連合会広報室課長が出席。

講演会では沖井氏が、①内航船舶の紹介、船員の仕事・船内生活 ②船員の職場環境や役割などについてわかりやすく説明する一方、古中氏が船員の待遇や職場環境などを補足した。講演後は榎本、坂本、鈴木氏と保護者達が卒業後に乗船する内航船や船員生活について、熱心な質疑応答を交わし盛り上がった。

その後、森真校長の乾杯の発声で幕を開けた懇親バーベキューパーティーの会場でも保護者たちは、講師とゲスト達を囲んで生徒達の将来を託す内航海運と船員教育について語り合った。

構内の生徒寮に宿泊した父兄たちは翌日、練習船『望洋丸』に乗船した後、学校側との懇談会で意見交換をするなど、有意義なときを過ごした。

